

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル: How a family history of allergic diseases influences food allergy in children: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: アレルギー疾患の家族歴が子どもの食物アレルギーに与える影響について: エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2022 DOI: 10.3390/nu14204323

筆頭著者名: 齋藤麻耶子

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

子供の食物アレルギー発症と両親のアレルギー疾患歴(食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息、鼻炎)との関連を評価することが目的である。

方法:

本研究では、エコチル調査に参加している子どもの1歳半、3歳までの食物アレルギー累積罹患割合と、両親のアレルギー疾患歴の関連について、乳児期発症の子どものアトピー性皮膚炎を含めた既知のリスクファクターの影響を考慮して、ロジスティック解析モデルを用いて検討した。

結果:

両親のアレルギー疾患歴はいずれも、子どもの食物アレルギー発症と統計的に有意な関連を示した。最も高い調整オッズ比は、両親ともに食物アレルギーがある場合 2.60(95%信頼区間、1.58-4.27)であり、両親のどちらかが食物アレルギーがある場合 1.71(95%信頼区間、1.54-1.91)であった。食物アレルギーの危険因子である子どものアトピー性皮膚炎で調整すると、調整オッズ比は低下したが、依然として統計的に有意な関連を示した。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、アレルギー疾患の家族歴は食物アレルギー発症の重要なリスクファクターの一つであり、片親から両親へと段階的にリスクが上昇することが示唆された。本研究の限界としては、食物アレルギーの診断が食物負荷試験結果ではなく、医師診断の保護者申告であるという点、原因となる食物アレルゲンを評価していない点などが挙げられる。

結論:

エコチル調査において、両親のどちらか、または両方のアレルギー疾患歴が、1歳半と3歳における子どもの食物アレルギー発症と統計的に有意な関連を示し、両親ともにアレルギー疾患がある場合に調整オッズ比が高くなる傾向があった。